

まえがき

技術室長 吉田義則

はじめに、この技術室報告 9 号の執筆に携われた方々、およびこの編集にあられた方々の労に深く感謝いたします。

今年度は和田博夫氏と細善信氏の二人が定年退職されます。長年にわたり

和田博夫氏は昭和 42 年 4 月に、上宝地殻変動観測所に採用され、同氏は長年にわたり中部地方北西部の活断層特に跡津川断層や火山地域（たとえば焼岳、乗鞍岳、立山）における微小地震観測及びそれによって得られた微小地震活動データの解析の研究支援などに携わってきました。今後、再雇用のあいだに新規採用される技術職員への技術継承をよろしくお願い致します。

細善信氏は昭和 41 年 4 月に宇治地区にあった地殻変動研究部門に採用されました。同氏はこれまで地震予知を目的とした坑道内に於ける歪計や傾斜計による地殻変動観測、GPS を用いた地殻変動観測について技術的改善などをおこない観測精度向上に向けた支援を行ってきました。稼働している観測機材には経験を必要とする機材も多々あり、これまでの経験と技術を生かし、後継者への引き継ぎならびに更なる精度向上に向けた観測、研究支援をよろしくお願い致します。

お二人の永年のご研鑽とご貢献に対して敬意をはらいつつ、今後、ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

大学も法人化になり 3 年が過ぎようとしています。その中で、技術職員の職務もますます多様化しています。技術継承および技術支援といった仕事に加え、観測所・実験所および実験室での施設の維持管理およびフィールドに設置された観測機器の維持に対しても自らの判断によって対応することが求められています。また、ネットワーク環境の構築・セキュリティの支援や独法化に伴い安全衛生管理の支援も増えてきて、今までの技術支援業務以外の仕事も多くなっています。今後、技術職員がそれぞれの業務に適した工夫を前向きに考えながら、この状況に対応できるようにしていきたいと思えます。また、限られた人数の中で支援業務を行っていますが、オーバーワークにならないように注意しながら支援していきます。精神科医の斎藤茂太先生が書いた本の中で、ストレスやイライラというゴミがたまり、泥水のように疲れてやる気を失うまえに「こまめにこころのスイッチを、オンからオフに切り替えて、ヒートアップしたところをしばらく休ませるのだ」と書いています。我々も、こころのオーバーヒートになる前に、意識してスイッチをオフにすることを心がけるようにコントロールしなければならないであろう。また、職場での人間関係も、人との付き合い方で車間距離ならぬ、人間（じんかん）距離のとり方が上手く出来れば、そうそう人とはぶつからずに済むはずだとも書いています。このように、技術室においても、お互いに良い距離を保ちつつ、情報交換をしながら持っているデータを共有し支援業務に対して協力し合って行けばいい支援が出来るのではと思っている次第です。

いよいよ来年度は、節目の第 10 号の発刊となります。また、9 名という退職者がありますが幸いにもほとんどの方が再雇用に希望されています。技術伝承しなければならない仕事を若手技術職員にご指導のほどよろしく申し上げます。

最後になりますが、皆様からの支援にお応えできるように、技術室としてもさらなる向上を目指して頑張ります。今後とも所長をはじめとする先生の方々、事務部の方々にご理解と一層のご支援をお願いいたします。